

JCFIA
JAPAN COMMODITY FUTURES
INDUSTRY ASSOCIATION

発行 日本商品先物振興協会
〒103-0016
東京都中央区日本橋小網町9-9
TEL(03)3664-5731 FAX(03)3664-5733

http://www.jcfia.gr.jp/

先物協会ニュース

JCFIA マンスリー

小松利寿

(小松 利寿 新日本商品監査役)

私の好きな一文字

FUTURES PLAZA

新年明けましておめでと
うございます。
平成7年に当社に入社
し、早11年が経過しました。
折しもこの1月17日に当社
の創業50周年を迎える節
目の年ということもあり、
社内で様々な50周年関連
事業が行なわれています。
その一環として50年史
の編集があり、若輩者な
がらその業務の一部に携わ
ることができました。この
年史編集事業は、私にとっ
て非常に意義深いものと
なりました。
というのも、当社50年の
歴史を綴くことは、等しく

亥年新春に想う 豊商事

総務部 情報企画
チーム チームリーダー
西方 克臣



戦後の業界史を俯瞰するこ
とであり、これは私にとっ
て実り多く、得るものもの
い時間でした。
当社発祥に縁の深い関門
商品取引所はその後、福岡
商品取引所と名前を変え、
昨年12月、関西商品取引所
と合併しました。今年から
は全国の商品取引所もその
数を4カ所に集中し、業界
が新たな時代に突入したこ
とを象徴する出来事の一
に思っています。
また、同じく50周年記念
事業として、この1月に経
済講演会を開催予定です。
講師には著名な投資家であ

るジム・ロジャーズ氏を招
聘し「商品の時代」というテ
ーマで講演していただきま
す。同氏による同名の著書
がベストセラーになったこと
は記憶に新しいところだ
が、業界の将来性に光を当
てる、新しい方向性を示唆し
た言葉であると思えます。
投資対象としてのコモディ
ティは、メジャーなものとし
て認知され、書籍やその他各
種媒体での取り上げられ方
は、その注目を裏付けるも
のと言えるでしょう。兜町の
伝承では、亥年の相場は前
年より高騰するそうです。
本年の商品相場がどのよ

うになるのかはわかりませ
ん。しかし、貴金属、穀物、
エネルギーすべての市場が、
時代のキーワードになりそ
うな注目材料に囲まれている
状況です。ジム・ロジャーズ
氏が言われる通り、「商品
の時代」としての方向性を
はつきりとさせる、飛躍的
な1年になるような気がし
ています。
亥年の今年、勢いのある
1年になるよう精励したい
と思います。
「プロフィール」
1972年東京都生まれ。
1995年豊商事入社。
2006年4月より現職。

「商品の時代」ともい
われる世界的な流れにつ
いて。
加藤 世界の金融市場は
情報技術の急速な発達で取
引の電子化が進み、国境を
越えた取引所の提携、合
併・買収が加速しつつあり
ます。そうした状況下、商
品先物取引は有望な金融ビ
ジネスの一つとして、世界
的に隆盛を見せています。
わが国でも、商品先物市
場は、経済活動におけるリ
スク管理に対応する様々な
機能を持つ重要な産業イン
フラとして、また、価格変
動を利用した分散投資の場

として、その役割が認識さ
れつつあり、期待が高まっ
ています。
実際に、国内外の大手証
券会社等が様々な顧客ニ
ズに対応したヘッジ商品、
投資の開発・提供を目指し
て国内市場に新規参入して
きています。
——先物知識普及、広報
については。
加藤 我々商品取引員
は、市場の流動性に寄与す
る多様な投資家を仲介する
担い手として、より高い社
会的信頼を獲得していか
なければなりません。そのた
め、05年の改正商取法施行
を機に、すべての協会員は
すでにルール遵守の徹底に
取り組み、顧客の取引ニ
ズを基本にした顧客本位の
法令遵守営業を行っている
姿勢を対外的にはっきり示
していくこととし、昨秋か
ら業界運動として取り組ん
でいます。この業界の姿勢
が実態として評価されるま
で、この運動を推進してい
きます。
また、多様な層からの市

場の世界で難
事が持ち上
ると渋沢栄一
に出馬を乞
い、一件落着
するの定番
であった。
関東大震災
で倒壊した米穀取引所ビル
が再建された時、栄一翁は
一書を揮毫した▼「成名毎
窮苦日 敗事多因得意時」
(名を成すは毎に窮苦の日
にあり 事の敗るるは多く
の得意の時に因る)。この
書は永く立会場に掲げられ
ていたが、第二次大戦後、
東穀取の初代理事長山崎
二は「これこそ相場の極意」
とえらく気に入って理事長
室に掛けていた▼相場は人
生の縮図だという。渋沢翁
の言葉は相場道の核心をつ
くと同時に人事百般の神髓
でもある。日本中がバブル
崩壊に呻吟していた時、そ
れ行けどんどんと攻めまく
ったツケが今、商品先物業
界を直撃し、一体この先ど
うなるのか、と疑心暗鬼の
日々▼業界の集まりでも奇
ると触ると、「出来高激減」
の話題で顔がくもり、言葉
はくぐもる。相場用語でい
えば、「陰の極」。翁も言う
ように、窮苦の中から成功
は芽生える。悲観も楽観も
せず、新しい顧客の創造、
発見にとめる時だろう▼
ジャンボ宝くじに並ぶ長蛇
の列、有馬記念に押し寄せ
た11万人の群衆に端的に見
られるように、一攫千金は
人類永遠の夢である。先物
市場にはその夢を実現でき
る装置が整っている。今こそ
その仕組みと効用、そして
リスクも積極的にPRする
ことが急務ではないか。翁は
ソロバノ(利)と論語義が一
致して初めて繁栄すると言
酸っぱく説き続けた。「商人
と屏風は曲げないと立たな
い」は通用しない。(泉)

多様な投機が産業インフラを支える

法令遵守を業界運動として持続

先物協会 加藤雅一 会長に聞く



2006年6月15日、「協会運営とは非常に難しいこと
ですが、誠心誠意、全力を挙げて努めます」と、加藤
雅一 新会長が先物協会の第7回通常総会で挨拶し、
新体制がスタートしてから半年が過ぎ、新年を迎
えた。その間、商品先物取引業界の経営環境は厳
しさを増すばかりで、業界の舵取りは難しさを増している。
加藤会長にこれまでの経過と難局打開に向けてのこれからの心構
え、施策について聞いた。

制度改善策を 早急に提案

——この半年を振り返っ
て。

加藤 全国商品取引所の
2006年後半の月間出来
高、取組高は04年の約半分
ほどに減っています。05年
5月施行の改正商取引所
法で導入された適合性原則
の徹底、財務規制の強化等
の法令遵守が厳しく求めら
れたことや、社会環境の変
化で商品取引員の勧誘行為

規制に強いブレーキがかか
りました。また、金融商品
取引法(改正証券取引法、
07年施行予定)の国会審議
で、商品先物取引について
は「今後のトラブルが解消
していかない場合には、不
招請勧誘の禁止の導入につ
いて検討すること」との附
帯決議がついて取引を自粛
する方向になり、出来高、
取組高の減少に歯止めがか
かりませんでした。
——今後の対策は。

加藤 商品先物市場がそ
の機能を十分に発揮してい
くためには、流動性に富ん
だ市場であることが不可欠
です。厳しい状況を踏まえ
06年11月に市場振興戦略
議の下に新たに「利便性検
討部会」(河島毅座長)、「経
営戦略検討部会」(松井政彦
座長)、「IT化戦略諮問部
会」(水野慎次郎座長)の3
つの部会を設置し、具体的
な制度改善策の検討を活発
に進めています。早急に対
策を打ち出し、実施に移し
ます。

価格変動リスクをコント
ロールし、収益圧迫要因を
極小化することが企業の競
争力を高めます。今の企業
の経営環境をみれば、商品
先物市場が提供する価格変
動リスクのヘッジ等の産業
インフラとしての機能は、
これまで以上に重要になっ
ています。
こうした中での出来高、

取組高の減少は見越すこ
とはできません。市場の流
動性確保は、商品先物市場
の機能確保にとって不可欠
の前提条件です。積極的に
価格変動リスクを引き受け
る個人投資家ははじめとす
る多様な投機の役割は、極
めて大きなものがあります。
トラブル発生余地の少な
い取引、すなわち、インタ
ーネット取引、商品ファン
ドや商業利用等の市場参加
も促進して市場の流動性確
保に取り組んでいきます。

日本市場の地位高める
——そうした機能の社会
的認識について。
加藤 先物取引の活用が
企業の競争力の強化に貢献
することについての社会の
理解を深め、より一層、商
品先物市場が活発に利用さ
れることを期待していま
す。価格情報と投機資金の
集積が世界の金融資本市場
における日本市場の地位を
高め、産業の国際競争力を
高めることについて、ぜひ
ご理解を賜りたい。

知識普及は連携して
——先物知識普及、広報
については。
加藤 我々商品取引員
は、市場の流動性に寄与す
る多様な投資家を仲介する
担い手として、より高い社
会的信頼を獲得していか
なければなりません。そのた
め、05年の改正商取法施行
を機に、すべての協会員は
すでにルール遵守の徹底に
取り組み、顧客の取引ニ
ズを基本にした顧客本位の
法令遵守営業を行っている
姿勢を対外的にはっきり示
していくこととし、昨秋か
ら業界運動として取り組ん
でいます。この業界の姿勢
が実態として評価されるま
で、この運動を推進してい
きます。
また、多様な層からの市

大切な個人投資家
——改正商取法では産業
インフラとしての商品先物
取引の機能が強調され、個
人投資家が軽視されている
のではないかとの見方もあ
ります。
加藤 近年、産業界は総
じて、原油価格上昇など原
材料価格が高騰する一方
で、製品価格は競争激化で
下落するという「上流イン
フレ・下流デフレ」に遭遇し、
価格転嫁等の価格要因が企
業の大きな収益圧迫要因と
して浮上してきています。
企業は、原材料等の商品
の価格要因によるリスクに
ついて、商品先物市場にそ
れを引き受けてもらうこと
によって、製品価格やユー
ザーに価格転嫁しないので済
みます。

1つのシステムで処理共通化 制度政策委 取引システムへの基本スタンス

各商品取引所の相互協力と英断によって、今からでも
実現しようと考えます——先物協会の市場振興戦略会
議・IT化戦略諮問部会は、商品取引員のIT化に関する
アンケート集計結果(73社から回答)などを踏まえて議論し、
取引所の取引システム構築について、次のような商品取引
員の基本スタンスを決め、12月20日の制度政策委員会です
承された。

1. わが国の商品先物市場は板寄せ取引とザラバ取引
の2つの売買仕法があるが、それぞれの売買仕法につ
き1つの取引システム(ハードウェアとソフトウェア)と
すること。
2. 取引所システムと取引員システムとの間の接続の仕
様、発注形式、執行条件、応答電文の内容等、取引の
処理方法に係る基本的事項は共通化し、商品取引員
における大幅なシステムの変更や人為的処理を要し
ないものとする。
3. ①商品取引所ごとの商品性(上場商品、取引単位、
呼値、制限値幅等)及び取引時間等の独自性に対
応できる柔軟な機能性のあるシステム設計とす
ること。
②商品取引員が取引システムに接続するアクセスポ
イントは1つに集約化し、そこから各商品市場で
の取引ができるようにすることが望ましいこと。

先物春秋

かつて商品相
場の世界で難
事が持ち上
ると渋沢栄一
に出馬を乞
い、一件落着
するの定番
であった。
関東大震災
で倒壊した米穀取引所ビル
が再建された時、栄一翁は
一書を揮毫した▼「成名毎
窮苦日 敗事多因得意時」
(名を成すは毎に窮苦の日
にあり 事の敗るるは多く
の得意の時に因る)。この
書は永く立会場に掲げられ
ていたが、第二次大戦後、
東穀取の初代理事長山崎
二は「これこそ相場の極意」
とえらく気に入って理事長
室に掛けていた▼相場は人
生の縮図だという。渋沢翁
の言葉は相場道の核心をつ
くと同時に人事百般の神髓
でもある。日本中がバブル
崩壊に呻吟していた時、そ
れ行けどんどんと攻めまく
ったツケが今、商品先物業
界を直撃し、一体この先ど
うなるのか、と疑心暗鬼の
日々▼業界の集まりでも奇
ると触ると、「出来高激減」
の話題で顔がくもり、言葉
はくぐもる。相場用語でい
えば、「陰の極」。翁も言う
ように、窮苦の中から成功
は芽生える。悲観も楽観も
せず、新しい顧客の創造、
発見にとめる時だろう▼
ジャンボ宝くじに並ぶ長蛇
の列、有馬記念に押し寄せ
た11万人の群衆に端的に見
られるように、一攫千金は
人類永遠の夢である。先物
市場にはその夢を実現でき
る装置が整っている。今こそ
その仕組みと効用、そして
リスクも積極的にPRする
ことが急務ではないか。翁は
ソロバノ(利)と論語義が一
致して初めて繁栄すると言
酸っぱく説き続けた。「商人
と屏風は曲げないと立たな
い」は通用しない。(泉)